令和7年度　尼崎理容美容専門学校　学校評価委員会

令和8年6月1日（月）

学校関係者評価委員

・林　久博様：尼崎市議会議員

・山本　丈吉様：ランブット代表

・築地美彩紀様：アクサ生命、尼崎商工会議所　共済担当

・黒川　治様：兵庫県議会議員（公務多忙により欠席）

学校評価にかかわる常勤の教職員

・半田　一朗：理事長

・大脇　展子：学校長

・絹川　俊行：広報部部長　理容科

・節安　徹：教務部部長　就職課

評価項目ごとの関係者評価・意見

（1）　教育理念・目的・目標

学生たちは我々教職員側から「こういう風に取り組んでいきましょう」と示していくと付いてくる学生が多いのかと感じている。逆に言うと自分で考えて行動するのが難しい。今後は期末試験などの結果を見た上で工夫しながら改善することがあれば改善しながら、教職員全員で取り組んでいかなければならないと思っている。

かなり昔の競技大会での話だが、「これをしたら失格」「これをしたら減点」と決めていた際に、他の審査員から「選手がかわいそうだから失格にしないで」と依頼があり、どんどん、どんどん選手たちを甘やかしてしまった。その時に多くの選手から言われたのが「決めたのは僕たちじゃない。審査員の人たち」と。結果的に何をしても OK になってしまった…。

ただ私が審査委員長になった時には開会式の場で「一切の禁止行為をしたら失格にします」と宣言した。そうしたら、それまでは時間が経過しても平気で失格行為をしたり、ダメということ行為をやっていた選手たちが、「失格にする」というと、誰一人としてしなくなった。

結局は学校長がおっしゃった通り、「今年の方針はこれだ」と言ったら、その通り、学生たちは付いてくる。そういう学生さんが多いのではないかと感じている。

（2） 教育課程、教育の実施、学修成果

甘やかすのではなく、今年の方針は「これだ」とはっきり伝える。

例えば 2 年生では国家試験受験可能な条件や、卒業が可能な条件、それらは絶対譲れないものがある。なので、「このままだとあなたは卒業できないよ。どうする？」と学生に突きつける。そうすると、周りの学生たちも含めてしっかりと皆が取り組み出す。

「あなたは国家試験を受けたいの？ 受けたくないの？ どっち？」と自分判断して決めさせる。「別に先生たちは受けなくても、卒業さえしてくれれば、いつでも受験はできるんだから」と言うと、初めて学生たちは突き放されたという感覚になる。

これまで中学校や高校の先生たちはきちっと面倒を見てくれた。でも専門学校は違う。義務教育ではなく、自らが望んで通っている学校、資格を取るために入って来た学校なので、自分自身での判断が要求される。それらを突き付けて、現実をしっかり見させることが大事。そうして、少しずつだが…各学生たちのやる気を起こさせて、自らやってもらう風にしていく。そうしなければ最終的に良い結果は出ない。

小学生の授業参観に行くと、じっと椅子に座ることが出来ないお子さんがいる。自分たちの時代もそうだったかな？と。すごく時代の差を感じる。最初からきちっと「座りなさい！」と言っておかないと、最初が肝心だと思う。「これをしなさい」「これはルールです」とはっきり決めていかないと…。でも先生は甘い。先が思いやられる…。親が努力していかないと、学校にすべて任せることができないのかなと危惧している。そういう状況に小学生はなっている。子供たちもそれに慣れた中で急に厳しくされると、「なぜ？」とか、それこそ「今まで言われたことないのに」となる。保育所だろうと小学校だろうと、小さかろうともっと厳しくした指導や教育をした方が良いのではと思う。

（3） 学生の受入れ、学生支援

募集としては入学定員まで集まっているわけではないが、本校の特色である「少人数制」を大きくアピールして広報活動に積極的に取り組んでいる。それに共感、賛同してもらった学生たちに入学してもらっている。大きい学校であれば 1 学年 400 人という学生数にもなると思うが、そういう大きな学校もある中で少人数制である本校を選んで入学してもらって、寄り添いながら卒業まで導く、というような受け入れを展開している。

心の病気を抱えている学生が増えていると感じている。本校については、いろいろな理由で登校できなくなった学生のために「休学」制度がある。保護者にも伝えている。一番大切に考えているのは無理をさせないこと。ちょっと時間を置く、焦らせない。本校の昼間課程は 2 年制だが、在籍期間としては 4 年間可能。急がなくて良いので、体調が回復して復学してもらいたい。

つまり一番の目的は卒業。同じ学年の学生たちと同じ時期に国家試験を受けることが正義ではない。人それぞれある。せっかく入学し、最長 4 年間の在籍期間があるのだから「なんとか卒業だけはしようよ」と

伝える。そして卒業後に自分自身で理容師免許や美容師免許が必要だと感じたら、いつでも受験できる権利、それが「卒業」。

様々な障害、学習障害などをかかえて入学する学生が増えているのも事実。しっかり職業教育を行っていきたい。

学生が学校に通えなくなると当然、担任の教職員も「退学させてしまったらどうしよう…」とプレッシャーを感じる。学校長として相談を受けることがあるが、焦る必要は何もない。例えば友人関係で上手くいかない。それで、心の病気を発症した。そんなケースでも、もしかしたら今のクラスには馴染めないかもしれないが、休学して次の学年のクラスメイトとなら上手くいくこともある。なので、何が正しいかは分からない。休学することは悪いことではないということを学生にも、担任にも伝えていきたい。

（4） 教育実施組織・教員

地域の小学校などでは若い教員が全体的に増えており、女性の教員も増えている。一般企業などで社会人を経験した教員と、大学等を出てそのまま教員になった人とは個人的には質が違うように感じ。いわゆる一般社会や世間を知らなかった場合、それが自分たちの常識になる。何か厳しく指導するとパワハラなど言われることが多いので、なかなか厳しく学生たちに指導や教育ができないのが今の時代だ。

社内においてはコミュニケーションを年齢、男女問わす社員間では大事にしている。しゃべりかけ過ぎても嫌かなとか感じるし、逆に話しかけられなさ過ぎても「いじめ」と捉えられられる…、こちらも嫌かとか。ぐいぐい行き過ぎても…と確かに難しい面があるが、月に 1 回はハラスメント等防止の研修を実施している。

教職員それぞれ、技術の指導方法については癖があり、全部を統一していくことは難しい。若い教職員に言うのは「最終的に合格基準を満たしていれば OK」ということ。若くて経験の少ない教職員は自信がないので、統一された指導方法があれば…という気持ちになるのだろう。全体的にいい方向には持っていきたい。決して、統一されていないことが悪いことだとは思っていない。国家試験合格に関しては最終的にやり方が間違っていなければ OK。それを若い教職員には伝えている。

各教職員で教え方に癖があると思うが、教科書をもう一度見て、自分に当てはめてみることも大切ではないか。

カットセミナーなどで講師が私と全然違う技法でヘアカットをしていた際、なぜ講師の人はあんなヘアカットをしているの？と感じることがある。そこで、店に帰ってから同じことをしてみたら、「あーなるほど」と思うことがある。

技術についてはしっかり見ることが大切。見ないでぼっーとしているといつまで経っても上手くはならない。学生たちには見る力を養うよう育てて欲しい。就職後に入店してからも、どんどん、どんどん上達が早いと思う。

目がいいってことだと思う。目がいい学生は上達するってこと。

（5） 教育環境

学生たちのアンケート結果を見た上で、回答項目にあった「こんな点が改善されたら更に良い学校になる」との点を再度見直し、1つ1つクリア、改善していけば、当然、もっともっと良い学校になるのでと感じる。

施設・設備等の定期点検、補修については財政との兼ね合いを図りながら推進させていく。また県の補助金を活用もして取り組んでいく。

（6） 教育活動の規模と改善・向上の取組

教科書について考えた際、私は元々、師匠の仕事ぶりを見て、基本的に我流で学んだ。だが、専門学校に通うことになり教職員の先生たちは、教科書通りの工程や順番で学生たちに指導している。例えば顔剃りをするなら、なぜその位置に立つのか…。私が我流で学び立っていた位置と教科書に記載されている立つ場所とでは全然違う。私も教科書通りの立ち位置で顔剃りをやってみたが、ものすごく無駄のない動きが出来た。「やっぱり教科書はすごいな」と率直に感じた。またヘアカットでもお客様に教科書通りの順番で行うと、自然な流れで勝手に上手く切れると実感した。

全体評価

理容師、美容師は長年にわたりずっと続けられる職業である。AI の時代になっても無くならない職業として上位に挙がっている。

仮に 60 歳を過ぎていても全国各地で多くの現役理容師・美容師が活躍しており、長年にわたりずっと続けられる職業で、資格を生かせる職業となる。それらから理容師・美容師を育成する本校が果たす養成施設、専門学校としての役割、社会的必要性、価値は高いと思われる。

学校のルールブックである「学生生活のきまり」をきちっと守られているおり、違反した者については罰則もあり、躊躇なく罰則という形で取り組んでいる。

学校の美化として掃除においては理美容の学校であるという意識をしっかり学生に持たせて、教室だけでなく、校舎全体すべてにおいてキレイに使用するんだという考えのもと取り組ませている。また使ったも

のは片づける、掃除をする、借りた物はその日のうちに返却するという当たり前だが、出来ていなかった点については、個人の道具、学校の道具、備品類、すべてを大切に使用出来る学生を育てている。

積極的に「トライやるウィーク」の中学生を多く受けれており、地域貢献も果たしている。

昨年度からはハローワークを介して雇用保険料を最低 1 年間修めた者に対しての求職者支援として美容師養成コースを開設し、学生の受け入れを行っていることも評価される。

学科でも実習でも集中して学べる環境づくりを構築しており、落ち着いた環境の中で勉学に励める環境を作っている。

イベントについても学園祭や修学旅行、スポーツ大会、校内コンテストなどを積極的に行っている。

これらを実践するために、学生一人一人を教職員全体で指導する意識を持ち、常に互いのフォローができるような環境作りを心がけている。

さらに、広く寄付金を募るとともに、同窓会も活用して教育環境の充実・発展させている。